

湯河原町ふれあい産業祭にて広報活動



自衛隊神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 折口2等陸尉）は、令和5年9月10日（日）、湯河原町民体育館（神奈川県湯河原町）において開催された「2023ふれあい産業祭」に自衛隊広報ブースを出展して広報活動を行いました。

産業祭では、約30の湯河原町所在の団体による地域のお店が出店されたほか、大道芸やフラダンスのステージ、ガラホン（福引き）やスタンプラリーなど、町民とのふれあいのあるイベントが行われて多くの方でにぎわいました。

小田原地域事務所の広報ブースにおいては、神奈川県本キャラクター「たま」との写真撮影や小中学生への缶バッジやシールの配布、自衛隊の活動や装備品の写真展示や迷彩服の試着体験を実施するとともに、自衛隊入隊の説明などを行い、中学生の保護者の方から「自衛隊の採用案内を理解できました」と言っているだけなど、町民の方に自衛隊に対する興味を持ってもらうことができました。

小田原地域事務所は、今後も地域に密着したイベントに積極的に参加し、自衛隊の活動への理解を広げ、少しでも身近に感じていただけるよう、精力的に活動してまいります。

体験航海「いずも」



自衛隊神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 辻2等陸尉）は、令和5年10月16日（月）、海上自衛隊横須賀基地（神奈川県横須賀市）において実施された護衛艦「いずも」の体験航海による募集広報に17名の学生を引率して参加しました。

当日は、天候にも恵まれ、横須賀への移動中から「楽しみにしていました」と話す参加者もいて、護衛艦「いずも」を見て、「わー想像より大きい」と歓声が上がるなど、体験航海を待ち切れない様子でした。

護衛艦「いずも」に乗艦し、約1,000人を収容できるという広い格納庫から、航空機用の大きな昇降機に約300人が乗って上甲板に上がると、海風とともに東京湾の絶景が広がりました。全長248メートル、哨戒ヘリ7機、輸送・救難ヘリ2機を搭載できるとあって上甲板はとても広く、「晴れた日は運動もできそうですね」と広報官と腕立て伏せの競争をする参加者もいました。

参加者からは「艦内が広く、迷子になりそうになりました」、「体験航海と艦内見学の貴重な体験をすることができました」などの感想があり、「将来は海上自衛官になって護衛艦の乗組員になりたいです」といううれしい話も聞くことができました。

溝の口募集案内所は、体験航海だけでなく、陸海空自衛隊の基地見学や航空機の体験搭乗も実施しています。神奈川県公式×（旧ツイッター）や溝の口募集案内所のホームページを是非チェックしてください。

